現地説明会資料　　平成２３年１１月１９日（土）

高住平田遺跡の調査

（財）鳥取県教育文化財団調査室　美和調査事務所
〒680-1133 鳥取市源太 12 番地（旧鳥取湖陵高校美和分校内）
TEL ：0857-51-7553　FAX：0857-51-7550
メールアドレス：matsuik@pref.tottori.jp
ホームページ：http://business4.plala.or.jp/kyo-bun/

●はじめに

財団法人鳥取県教育文化財団では、鳥取県から受託した一般国道９号（鳥取西道路）の改築工事に伴う発掘調査を、昨年度から継続して実施しています。

鳥取市高住にある高住平田遺跡は、湖山池の南側に位置し、東西を丘陵にはさまれた谷筋にあります。調査地点は西側の丘陵裾にあたり、この丘陵では弥生時代中期（約 2100 年前）の銅鐸がみつかっています。

昨年度調査した２区では、飛鳥時代（約 1400 年前）から室町時代初めごろ（約 700 年前）の遺構がみつかりました。注目される遺物としては、役所や寺社、貴族の邸宅などの限られたところで使われたと考えられる銅印や、烏帽子姿の貴族をかたどった人形代があります。

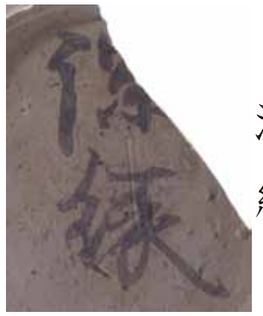
今年度は１区と３区で発掘調査を行い、その結果、奈良時代（約１３００年前）から江戸時代（約３００年前）までの遺構と遺物がみつかり、この地域の歴史を知るうえで重要な手掛かりを得ることができました。

このたびの調査で明らかになってきた、この地域の昔のようすをご紹介します。

調査地を南上空から見たようす

●出土した遺物

深縁□□



深縁

○墨書土器
平安時代の坏の底に、墨で「深縁」と書かれていました。同じ文字は昨年度の調査で出土した土器（右の写真）にも記されていました。

○漆で記号が書かれた土器
外側に「×」と書かれた蓋が数点出土しています。

○奈良時代の須恵器
川の中からは、坏や蓋のほか、俵形の胴体に口がついた横瓶などが出土しました。

○黒色土器
内面にすすを吸着させて、ていねいにみがいたものです。

○土錘
素焼のおもりで、魚をとるための網などに使われたものです。

●まとめ

昨年度からの調査で、調査地には奈良時代から江戸時代にかけて連続する３条の川や溝がみつかり、これが昭和５０年ごろまで使われていた水路に受け継がれたことがわかりました。

調査では建物跡は川の近くにあった１棟だけで、その他の遺構はほとんどみつかりませんでした。そんな中で、川の中から奈良～平安時代にかけての遺物が多くみつかったことが注目されます。出土したものの中には、銅印（写真左）や人形代（写真右）といった特異な遺物があり、高住地域がこのあたりの有力者と何らかの関わりがあったことが想像されます。

鎌倉時代以降になると調査地周辺には水田が広がっていたようで、高住の人々が川や溝を利用して耕作を行っていたようすがうかがわれます。

●みつかった主な遺構（図の丸数字は、右ページの写真の数字と対応しています）

奈良～平安時代の川（２区）

鎌倉～室町時代の川と室町～江戸時代の溝が重なっているようす（１区）

３本の川と溝が並んでいるようす（３区）

掘立柱建物がみつかったようす

●掘立柱（ほったてばしら）建物跡

奈良～平安時代の川が埋まった後につくられた建物跡で、大きさは東西 5.5m、南北 5.6mあります。柱穴は東西方向に５本、南北方向に３本並んでいました。

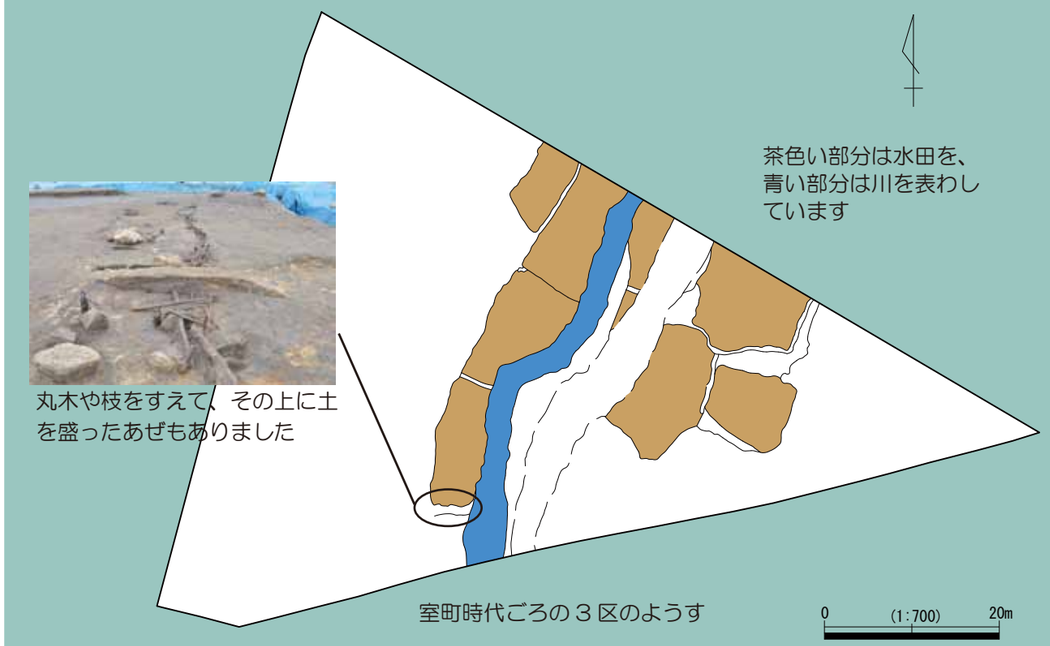
この建物では内側にも柱があって、しっかりとしたつくりにしています。こうした構造は、倉庫に多いとされています。

●奈良～平安時代の川（約1300～900年前）

幅が４～7mあります。川の中からは多くの土器が出土していて、ほとんど割れていないものもたくさんみつかりました。

なかには、右の写真のように２枚の皿が重なった状態でみつかったものもあります。

●鎌倉～室町時代の川と水田（約 900 ～ 600 年前）



丸木や枝をすえて、その上に土を盛ったあぜもありました

室町時代ごろの３区のようす

奈良～平安時代の川が埋まった後に流れていた川で、幅４～5mあります。川の中からは、土器とともにたくさんの牛の骨がみつかりました。

また、３区ではこの川の洪水による砂で埋まった水田を確認しました。水田の大きさは大小さまざまで、高さ数センチのあぜで区画されていました。

牛の下あごの骨

●室町～江戸時代の溝（約 600 ～ 300 年前）

鎌倉～室町時代の川が埋まった後に新たにつくられた溝で、幅が約３～4mありました。

川があったところは、他の場所と比べて崩れやすいので、右の写真のように石を両岸において、溝が崩れないように補強していました。

溝を石で補強しているようす